

# 飛騨川百面相

僕の家の前には「飛騨川」が流れている。

飛騨川はいろいろな姿を僕にみせてくれる。

春は川と桜。

飛騨川の川沿いは春になるとたくさんの桜が咲き、とても綺麗だ。

また、桜が散り始めると、無数の桜の花びらが川を流れ、川一面が桃色になる。

すると、いつもは暗い青緑色の川が明るくなり、見ている僕の顔も明るくなる。

僕は毎年、飛騨川沿いで家族と花見をしたり、写真を撮ったりしている。

夏は空の青さとのコントラスト。

空の青さと川の青緑色、そして、葉の生い茂った山の緑の三つの色が

ケンカせずに混ざり合い、一つの景色となっている。

僕が初めてこの景色を見た時は、思わず写真を撮りたくなくなるくらい綺麗だと感じた。

秋は赤や黄色の山景色。

飛騨川の近くにはたくさんの山がある。

秋になると赤や黄色に染まった山が川の水面に映り、落ちた葉が川を流れる。

このため、飛騨川は化粧をしたかのように鮮やかになる。

冬は雪景色。

辺り一面に積もる雪の白と、川の青緑色が映えてとても綺麗だ。

雪が川に落ちると、ゆっくりと解けていき、川は暗い青緑色から透き通った青色が変わっていく。

ゆっくりと雪が降ってきて、ゆっくりと川に解けていく姿を見ていると、僕は時間が止まっているかのように感じる。

このように、飛騨川は僕に季節を感じさせてくれる。

しかし、飛騨川は、穏やかな景色ばかりではない。僕は、大雨が降った後の川を見に行ったことがある。

飛騨川は、普段のゆるやかな流れが嘘のように、速く激しく波打つようになっていた。

橋脚には上流から流れてきた流木やゴミが引っかかっていた。いつもとは全く違う飛騨川の姿に僕はとても驚いた。

雨上がりの飛騨川は、霧で真っ白になる。飛騨川に架かる橋は、霧に包まれて何も見えなくなる。

真っ白な中から突然、人や車が出てくるのは驚くが、その霧が少しずつ晴れて川が顔を出す時の景色も幻想的で美しい。

飛騨川は僕にパワーをくれる。

コロナウイルスによる自粛期間中には、飛騨川沿いを走ってトレーニングをしたり、景色を眺めたりした。

自粛期間中にはどこにも出掛けることができなかつたけど、飛騨川沿いを一周して汗を流して景色を眺めると元気が出た。

あらためて、自分の住んでいる町の良さを実感できたように思う。

飛騨川はいろいろな顔をもっている。まるで百面相のようだ。

この景色をいつまでも守っていききたい。

しかし、残念なことに、大雨の影響に関係なく、ペットボトルなどのゴミが流れていることがある。

川沿いにゴミがホイ捨してあることも度々だ。

だから僕は、積極的にゴミを拾って、大好きなこの飛騨川を守っていききたい。



百鬼丸  
絵

川辺町立川辺中学校 二年

馬場 貴大

絵 百鬼丸